

－ 緩和ケア認定看護師の役割と活動 －

緩和ケア認定看護師を目指したきっかけ

私は病棟で診断期から人生の最終段階の血液疾患を抱える患者・家族と関わり、再発や難治性の患者に対する治療選択の支援に難しさを感じていました。そこで、患者が自分らしい生き方や生活を送ることができるよう支援したいと思い、緩和ケア認定看護師を取得しました。

緩和ケア認定看護師の役割

緩和ケア認定看護師の役割は、実践・指導・相談になります。実践とは、生命を脅かす疾患を抱える患者・家族のQOL向上を目指して、全人的苦痛の緩和、症状マネジメント、意思決定支援、家族ケア等を行います。指導とは、看護実践を通して看護職に指導を行うことです。相談とは、看護職等に対しコンサルテーションを行うことです。

実際の活動内容

現在、血液内科、乳腺外科、内分泌外科、歯科口腔外科の病棟で勤務しています。がんを抱える患者は、手術療法、薬物療法、放射線療法等の標準治療や、症状緩和のための治療を受けています。入院時より、患者のつらさや思い等を聴き、全人的苦痛を評価し、身体的苦痛の緩和を優先的に全人的ケアを行っています。また、治療と生活の両立に向けて、患者の持てる力を生かして症状マネジメントを行えるように支援し、外来や地域への継続看護につなげています。人生の最終段階の患者に対し、多職種カンファレンスで療養場所を検討し、苦痛症状の緩和、心地よさを感じられるケア等を行い、安楽に過ごせるよう関わっています。他にも病状や治療方針のインフォームドコンセント（IC）同席を行い、IC後の反応の確認、精神状態のアセスメント等を実践し、必要時にがん看護専門外来へ引き継いでいます。例として、身体的苦痛がみられ、生きる意欲も失いつつあり、がん薬物療法を拒否した急性骨髄性白血病の患者に対し、関係性の構築、症状緩和、スピリチュアルケアを行いました。その結果、患者は苦痛が緩和され、生きる目標を見つけ、治療を受けることを意思決定しました。私は、患者・家族の意向や価値観、大切にしていることや理由を伝えていただく姿勢で関わることを、患者にとっての最善を考え続けることを大切に看護実践しています。

指導では、緩和ケアを明日からの実践につなげてもらえるように取り組んでいます。病棟では患者に合わせた看護方法を伝え、勉強会も開催しています。院内の看護スキルアップ研修で、緩和ケア、症状マネジメント、食・栄養への支援に関する講義をがん看護スペシャリストとともに担当しています。

相談では、相談者のニーズに応じた支援を心がけています。呼吸困難等の症状緩和に関する問い合わせに対し、実践できているケアを賞賛・承認するとともに、課題の理由や背景にも目を向けてもらい、他にも取り入れられるケア等を一緒に検討するよう関わっています。オピオイド開始に伴うコンサルテーションもあり、緩和ケアチームと情報共有を行い、連携を図っています。

今後は、外来の疾患診断時のICにさらに同席し、診断時からの緩和ケアの推進に努めていきたいと思っています。



多職種カンファレンスの様子